

ちいき新聞

2017年7月7日号
市川北部版
発行部数23,400部
VOL.747 全57版
総発行部数2,135,105部

今週の見どころ

- ☆地域のおいしいお店
- ☆情報満載「イベント情報」
- ☆読者投稿 ちいカフェ
- ☆お楽しみ♪読者プレゼント

水のトラブルはクラシアン!

期間限定 2017年8月31日まで (その他割引 併用不可)

作業料金 **10% OFF!**

RNCAN 創業26周年

出張費・点検お見積もり一切無料

水通指定工事店認定 (一部エリアを除く)

24時間受付・365日対応 **0120-573-573**

(船橋支社) 船橋市丸山4-46-6
(千葉支社) 千葉市緑区土気町1632-2
詳しくは くらしあんしん 検索

ちいき新聞に関するご意見・ご要望・お問い合わせは 読者サポート ☎0120-152-337 受付/平日10:00~18:00 ※土日祝日は休み ✉ichikawa-kita@chiikinews.co.jp



分団長のロケット製作の説明をしっかりと聞く



ロケット製作中



ロケット発射!

千葉県内に四つの日本宇宙少年団

筑波科学万博の翌年(1986年)に、宇宙を通して日本や世界の平和を求めていく人材を育てよう」と結成された日本宇宙少年団(YAC)。松本零土理事長の下、現在国内140分団で、約3000人の団員がおよそ800人のボランティアリーダーに支えられ活動している。

千葉県内には四つの分団があり、市川COSMOS分団は、千葉市・松戸市に続く3番目の分団として2011年に発足。筑波宇宙センター長、種子島宇宙センター所長などを歴任した長友正徳氏が、分団員50人ほどを率いる。

月1回の活動日には幼児や小学生、発足当初から活動を続ける中高生、さらに同伴の保護者も加わって、にぎやかに科学工作や実験などを共に楽しむ。プラネタリウムやJAXA、科学館などの見学に行ったり、地域のイベントに参加したりもする。

地球号のクルーとして子どもを育てる

5月の活動日では、公民館で午前中に火薬を使ったロケットを作成していた。分団長が直輸入した米國製のロケットを、作成手順の説明を聞いてから個々に作っていく。英語の説明書なので難しくそうだったが、図を手掛かりに全員が1時間弱の作業で

ロケットを完成。パラシュートを断熱シートで保護したり、大事な接続部分を確認したり、部品のもつ意味を考えながらしっかりと作り上げた。

昼食後には、公民館から歩いて江戸川の河川敷緑地へ向かい、ロケットの発射実験だ。ドキドキを胸に、一人一人が順番にカウンタダウンして発射ボタンを押す。ロケットが、

「シュー」という音と共に勢いよく飛び出し、空に吸い込まれ、パラシュートを開きゆっくりと落ちてくる。全員のロケットが無事に空を飛行し回収できた。

「学校や家庭だけでなく、地域で子どもを育てていくことが大切」と語る長友分団長。さまざまな体験を通して子どもたちが宇宙へと視野を広げながら、大きな夢を育んでいる。(E)

※ホームページ
<http://ichikawacosmos.web.fc2.com/>

少年よ、宇宙を目指せ!

日本宇宙少年団「市川COSMOS分団」(YAC-i)

宇宙船地球号の乗組員として、
世界の人と豊かで平和な未来を目指す子どもたちを、地域で育てる。



市川COSMOS分団(YAC-i)